

なにが
あっても、
生きる。



第2次大戦下、
領土を奪われ翻弄されるウクライナ、ポーランド、ユダヤ人の3家族が
大地と子どもたちを守り抜こうとする運命の物語

キャロル オブ・ザ・ベルス

うた
家族の絆を奏でる詩

DIRECTOR OLEGA MOROKHETS-IVANOVA SCREENWRITER KYIENA ZAVYALOVA DIRECTORS OF PHOTOGRAPHY EUGENIY KIRYI ALEXANDRA ZUCHENKO PRODUCTION DESIGNER VLADLEN OVAZENKO MUSIC HOUSSEIN MREZAGHDEH

EDITING ROMAN SYDOROV SOUND DESIGN ANDRII OBYDI PRODUCTION ARTIST KORYUBAYEV, MAKSYM LITVINCHENKO, TARAS BOHAR

International
Distribution
Partners

STUDIOCANAL

AMVISION

cherryred FILM

出演：マリアム・ババロワ、オレグ・メドベージェフ、エリナ・ブコワ、ヤコブ・コシツ、オレグ・メドベージェフ、エリナ・ブコワ、ヤコブ・コシツ、オレグ・メドベージェフ、エリナ・ブコワ、ヤコブ・コシツ

監督：オレグ・モロケツ、脚本：キエナ・ザヴァロヴァ、撮影：ユーゲイ・キリ、編集：マクシム・リウチンコ、3Dリネアライメント：ウクライナのウクライナ映画協会、122分/英語/Cert of the Reg.

配給：新プラタ 配給/リネアライメント © 2021 UNITED OF CULTURAL AND SOVIETIZATION SOCIETY OF UKRAINE. ALL RIGHTS RESERVED.

占領され続けるウクライナで、
戦争でさえ奪えなかつたものは
民族を超えた愛と歌に込めた希望



クリスマスキャロルとして有名な「キャロル・オブ・ザ・ベル」は、ウクライナで古くから歌い継がれている民謡「シェドリック」に1916年「ウクライナのバベル」との異名を持つ作曲家マイコラ・レオントーヴィツチュが編曲し、英語の歌詞をつけたものである。映画「ホーム・アローン」(90)内で歌われ、世界中に知られるようになった。

ロシアによるウクライナへの侵攻が始まることを予感していたかのように2021年、ドキュメンタリーを主戦場とするオレシア・モルグレッツ=イサイエンコ監督は本作を作り上げた。1939年1月、同じ屋根の下で暮らすウクライナ、ユダヤ、ポーランド人の3家族が第2次大戦に巻き込まれ翻弄されても「キャロル・オブ・ザベル」の歌に支えられ、ひたむきに生き続ける姿は荘厳である。第2次大戦のウクライナ、ポーランドを舞台にした日常を生きる家族を通して戦争を描く、今を生きる全世代必見の映画がこの夏公開する。



ウクライナは古くから侵略され続け、
特にロシア革命以降ソ連とドイツから脅かされ続けてきました。
その後の第2次世界大戦下では最も激しい戦闘地域のひとつでした。
置かれた立場も非常に厳しく、やほりソ連やナチスに侵略され、
大戦が終わってもソ連に侵略されたのです。
この歌の基になったのは、ウクライナ人がここに存在しているよと、
希望の声を届けてくれるウクライナに伝わる民謡です。
この映画は激動する時代の流れの中で懸命に生きる家族を描いています。
ウクライナ人としての尊厳を守り続けた両親の愛に育まれた
子どもたちの無垢で美しい歌声は、我々の心の奥底に染み渡ります。
未来を生きる子どもたちの平穏な日々を奪う権利は誰にもないのです。

セルギー・コルスンスキー (駐日ウクライナ特命全権大使)



7/7 (金)よりロードショー
ムビチケカード絶賛発売中! ¥1,500(税込)
※一部劇場を除く

JR新宿駅中央東口 徒歩2分 武蔵野ビル3F
新宿 武蔵野館
03(3354)5670 shinjuku.musashino-k.jp

銀座4丁目 和光ビル通り (全席指定・入替制)
シネスイッチ銀座
03(3561)0707 www.cineswitch.com

吉祥寺PARCO地下2階
UPLINK 吉祥寺
0422-66-5042 joji.uplink.co.jp/